

テキサス・オクラホマ 安全の手引

2021年2月
在ヒューストン日本国総領事館

はじめに

日本人が海外を訪れる機会が増え、生命、身体、財産を脅かす各種犯罪の被害に遭うケースが増えています。また、最近は強盗・誘拐・スリ等の一般犯罪に加え、テロに巻き込まれる危険性もあります。このような状況は、在ヒューストン総領事館の管轄地域であるテキサス州及びオクラホマ州においても同様です。米国では銃器所持者が多く、特にテキサスは自衛を目的とした銃の使用が広く認められている州の一つでもあり、思わぬ場面で銃撃に巻き込まれる可能性があります。とりわけ2020年中は、新型コロナウイルスの拡大とともに銃犯罪が急増したとされ、今後も引き続き警戒が必要です。

また、自然災害として、2017年はハリケーン・ハービーがテキサス州に上陸し、記録的豪雨による浸水の影響でヒューストンを含むテキサス沿岸部に甚大な被害をもたらしました。米国においては一般的に、毎年6月から11月末までがハリケーンシーズンといわれています。普段よりいざという時の備えが必要です。

この「安全の手引」は、テキサス州、オクラホマ州に在住の方々及び両州を旅行される方の安全に資するために、安全対策に係る基本的情報を提供することを目的として作成されたものです。



在留届・たびレジについてのお願い

「在留届」とは、外国での住所や緊急の連絡先、メールアドレスなどを届け出いただくもので、「旅券法」において海外に3か月以上滞在する場合は、大使館・総領事館へ「在留届」を提出することが義務付けられています。

「在留届」は、総領事館からの緊急連絡、安否確認、救援活動など、緊急時の連絡を迅速に行うための唯一の手掛かりとなります。また、在留届のご提出時にメールアドレスも併せて登録されますと、当館から発出している安全情報(洪水情報、感染情報、治安情報、突発事件の発生の連絡等)を受け取ることができます。

「在留届」はインターネットで簡単に提出できます(<http://ezairyu.mofa.go.jp>)。海外で住所が決まりましたらできるだけお早めに手続をお願いします。また、帰国、転居、家族構成の変更など届出事項に変更がある場合には、「変更届」の提出を忘れないでください。オンラインで申請された方は、オンライン上で「変更届」「帰国届」を提出できます。

「たびレジ」とは、海外旅行や海外出張される方が、旅行日程・滞在先・連絡先などを登録すると、滞在先の最新の海外安全情報や緊急事態発生時のメール連絡、また、緊急連絡などが受け取れるシステムです。スマートフォン対応のアプリもあります。

【目次】

I 当地の治安情勢

1 テキサス・オクラホマ州の治安について

- (1) 概要
- (2) 銃器使用による事件の多発

2 治安に関するデータ

テキサス州

オクラホマ州

II 日頃の安全対策

1 防犯の基本的な心構え

2 防犯対策について

- (1) 住居に関する防犯対策(安全な住居の確保)
- (2) 日常生活において
- (3) 車を使用する上での防犯
- (4) その他犯罪への防犯対策

3 万一事件・事故に遭遇した場合

- (1) 警察・消防・救急はすべて「911」
- (2) 犯罪被害に遭遇した場合
- (3) 交通事故に遭遇した場合
- (4) 警察に呼び止められる等の状況が発生した場合
- (5) 困った時は総領事館へ連絡
(コラム: パスポートを盗難・紛失した場合)

III メキシコ国境周辺都市の安全対策

1 国境付近の特殊事情

2 犯罪防止のための留意事項

IV. 大規模災害・テロ対策

1 ハリケーン

- (1) ハリケーンについての基礎知識
- (2) 日頃の準備
- (3) ハリケーンが近づいてきたら
- (4) ハリケーン通過後及び洪水発生時の注意点
- (5) ハリケーン予報
(コラム: ハリケーン・ハービー)

2 トルネード

- (1) トルネードについての基礎知識
- (2) 警報

- (3)避難の仕方
- (4)トルネード予報

3 テロ対策

- (1)情勢と脅威度
- (2)テロに遭遇しないための留意点
- (3)万一、テロが発生した場合

V. その他生活習慣による注意事項

1 家庭内暴力(DV)

2 親と子の関係

- (1)入浴
- (2)子どもだけによる留守番
- (3)しつけと児童虐待
- (4)親権の問題

何かあったらこちらまで！

警察・救急・消防の連絡先

在ヒューストン日本国総領事館連絡先

外務省連絡先

I テキサス・オクラホマ州の治安情勢

1 テキサス・オクラホマ州の治安について

(1)概要

テキサス、オクラホマ両州は、近年一般犯罪が増加傾向にあり、米国の他の都市同様、日頃から不測の事態に巻き込まれないように注意する必要があります。

(2)銃器使用による事件の多発

テキサス州法はその他の州の法律より広範な銃器等の使用を認めており、自分の財産の保護だけでなく、強姦、放火、不法侵入、強盗、夜間の窃盗、夜間の器物破壊等にも殺傷武器の使用による防護を認めています。2007年には、「キャッスル・ドクトリン(自身の身体や財産に危険を感じた場合に殺傷能力のある武器使用を正当化する法律)」の範囲を拡大し、身に迫った脅威に対して可能な限り逃げることを義務付けていた条項を撤廃しましたが、その結果として、銃器による事件が多発しています。

銃器等の所持が多い米国においては、不測の銃使用があり得ることを常に認識し、万一にも銃撃対象とされたり、思わぬ場面で銃撃に巻き込まれたりすることのないよう、注意した行動を徹底するようにしましょう。

2. 各州の治安状況



テキサス州

	殺人	強姦	強盗	傷害	住居侵入盗	非侵入盗	自動車盗	放火
ヒューストン	275 (12)	1,249 (53)	9,147 (388)	14,586 (619)	17,038 (723)	71,614 (3,040)	13,098 (556)	485 (21)
ダラス	198 (15)	797 (58)	4,400 (323)	6,369 (467)	9,210 (676)	25,812 (1,893)	10,257 (752)	144 (11)
サンアントニオ	105 (7)	1,630 (105)	1,965 (126)	7,346 (471)	8,172 (524)	51,469 (3,301)	7,781 (499)	181 (12)
オースチン	32 (3)	534 (54)	971 (98)	2,416 (245)	4,344 (441)	29,216 (2,963)	3,028 (307)	103 (10)
エルパソ	40 (6)	310 (45)	338 (49)	1,734 (252)	1,048 (153)	8,479 (1,235)	851 (124)	29 (4)
マッカーレン	1 (0.7)	33 (23)	39 (27)	67 (46)	152 (105)	3,415 (2,357)	28 (19)	3 (2)



オクラホマ州

	殺人	強姦	強盗	傷害	住居侵入盗	非侵入盗	自動車盗	放火
オクラホマシティ	75 (11)	539 (82)	888 (135)	3,249 (494)	6,206 (943)	16,922 (2,572)	3,790 (576)	96 (15)
タルサ	55 (14)	341 (85)	718 (179)	2,850 (709)	4,846 (1,206)	13,457 (3,350)	3,033 (755)	209 (52)

出典: FBI Offenses known to Law Enforcement/ 2019 年
(表の括弧内の数字は、人口 10 万人あたりに換算した犯罪率)

【参考】



日本における人口 10 万人当たりの主要犯罪別犯罪率 (2019 年)

日本	殺人	強姦	強盗	傷害	住居侵入盗	非侵入盗	自動車盗	放火
人口 10 万人当たり	0.8	1.1	1.2	16.8	窃盗犯総数 / 422			0.7

令和 2 年「警察白書」

II 日頃の安全対策

1 防犯の基本的な心構え

- (1)「自分と家族の安全は自分たちで守る」との心構えが基本。
- (2)「予防」が最良の危機管理。悲観的に準備し、楽観的に行動。
- (3)現地での行動の三原則
 - ア 目立たない
 - イ 行動のパターン化を避ける(行動を予知されないこと)
 - ウ 用心を怠らない(慣れと油断は禁物)
- (4)地元の常識や生活習慣を尊重し、現地社会に早く溶け込むよう努める
- (5)情報収集(特に治安情報)の収集に努める。



2 防犯対策について

(1)住居に関する防犯対策(安全な住居の確保)

ア 住居の選定

住居を選ぶ際には、地域の治安状況を確認し、安全な住居を確保する必要があります。なるべく多くの人から情報を収集するようにしてください。なお、一般的には、以下のような場所は避けた方が賢明と言われています。

- (ア) 高速道路(又は賊の逃げ道となる幹線道路)の出入口に近い家
- (イ) 表通りから見えない家
- (ウ) 玄関周辺に樹木が生い茂り、賊が潜みやすい家
- (エ) 夜間、周辺の照明が十分でない家

イ 住居の防犯

複数の鍵を掛けることは、解鍵の手間が掛かるので、賊の侵入防止に有効です。入口以外(窓など)にも必ず鍵をかけてください。外出の際だけではなく、在宅の際にも二重に鍵を掛け、外来者を確認して鍵を開ける習慣をつけてください。

(2)日常生活において

ア 近所付き合い

米国では日本のように手土産を持って引っ越しの挨拶に回る習慣はありませんが、機会あるごとに

隣人と会話を交わし親しくなるように心掛けましょう。また、集合住宅の場合、夜間を含め緊急時の連絡方法を確認しておきましょう。

イ 電話

(ア)電話が掛かってきたときは、相手を確認する前に自分の番号や名前を教えないようにしましょう。また、子どもが電話に出るとき、見知らぬ人が親の在宅の有無を聞いてきたら、親が不在の場合でも、「家に居るが手が離せないので名前を教えてください」と受け答えするよう、日頃から子供たちにも教えておきましょう。

(イ)いたずら電話が掛かってきた時は、何も言わずに直ちに電話を切りましょう。

(ウ)留守番電話をセットする時は、「日曜日の9時まで戻りません。」、「20日まで不在です。」等、具体的な予定を明らかにするメッセージを録音しないようにしましょう。

(エ)勧誘や詐欺の電話などで個人情報を盗み、その人物に成りすます犯罪が横行しています。電話による振込詐欺などの被害に遭う可能性にも十分に注意してください。ポストの郵便物も見られる可能性がありますので、長期間放置しないよう注意しましょう。

ウ 訪問者

(ア)訪問者があっても、すぐには扉を開けず、のぞき窓などから訪問者の身元、不審な同伴者はいないか、付近に不審者はいないかなど、良く確認します(予定された訪問であっても必ず確認しましょう)。

(イ)電気・ガス・水道・電話などの修理・取付け工事人などの場合も、ドアを開ける前に、窓越しに身分証明書の提示を求めて確認しましょう。

(ウ)身元を確認した後、まず安全チェーンをかけたまま細めに扉を開け、再度確認してから扉を開けます。なお、来訪者が見知らぬ人であったら、できる限りドアを閉めたままの状態 で用件を済ませるようにしましょう。

エ 夜間外出時のとき

(ア)夜間外出するときは、室内の灯りをつけておくなど、誰かが家にいるような印象を与える工夫をしましょう。

(イ)夜間の一人歩きはしないようにしましょう。また、複数で歩くときも、暗い場所は避け、目的地までの移動は素早く行いましょう。夜間に移動の必要がある際は、短距離でも車を使うようにしましょう。

(ウ)街中では不審な人物がいらないか常に注意しましょう。背後の気配にも注意します。

(エ)万一強盗に襲われた場合は、身の安全を優先し、犯人を刺激しないようにし、無理な抵抗は避けてください。

オ 長期間家を留守にする場合

(ア)近所の人に新聞、手紙類の収集を依頼するか、郵便局、新聞社にバケーションホールドを頼んでおき、留守宅であることがなるべく分からないようにしましょう。

(イ)夜になったら自動的に電灯を点滅させるセンサーやタイマーが安く手に入りますので、利用されるのも良いでしょう。また、地域によっては、警察による特別巡回を依頼することができますので、所轄の

警察に問い合わせてください。

(3) 車を使用する上での防犯

ア 運転前

(ア) 車は常に使用前に点検し、異常の有無や燃料の状態などを確認してください。治安の悪い場所での駐車や給油は避けるようにしてください。給油中は短時間でも必ず車をロックしておくようにしましょう。

(イ) 自動車登録証、自動車保険証は常に車内に備えておきましょう。また、道路地図や緊急連絡先なども常備するよう心掛けてください。

(ウ) 事故や急な故障に備えて、筆記具、発煙筒、非常停止板、懐中電灯、作業用手袋、バッテリー用ジャンプケーブルを積載しておくことで安心です。

イ 運転中

(ア) 運転中はドアをロックし、窓を閉めましょう。

(イ) 米国では日本に比べ、高速走行を原因とする交通事故の死亡率が高くなっています。速度の出し過ぎに気をつけ、また、必ずシートベルトを着用してください。

(ウ) 見知らぬ者に停止を求められても、絶対に応じないようにしましょう。また信号待ち等で停車中も周囲の状況に注意するようにしましょう。窓を開けたまま信号待ちをしている車を狙う強盗もいます。

(エ) 移動中、尾行されていると気付いたら目的地に直行せず、最寄りの警察署やショッピングセンター等に一旦退避しましょう。退避場所がない場合には、クラクション等を鳴らし、周囲の人やパトカーの注意を引くことも重要です。

ウ 駐車の際

(ア) スーパーやレストランの駐車場や自宅のガレージは、一番犯罪の起こりやすいところです。実際に邦人の方が財布、パスポートといった貴重品の盗難被害に遭っています。自宅のガレージは常に整頓し、賊が潜むような死角を作らないようにしましょう。また、自宅外で駐車する場合は、柱の陰、バンタイプの車の隣、外見上手入れの悪い車の隣は避けるようにし、人目の多いところに駐車しましょう。

(イ) ほんの1、2分でも車を離れる場合はキーを抜き、施錠するよう心掛けてください。また、車にはできるだけ警報装置を備え付けましょう。車の盗難防止には、ハンドルを固定する補助錠の使用も有効です。

(ウ) 貴重品やカバン、コンピューター等は、車の中、特に外から見える場所には絶対に放置しないようにしてください。やむを得ず車内に荷物を残す際には、荷物をトランクにしまうなど外から見えない位置に収納するようにしましょう。

(エ) 車に乗るときは、周囲に人が潜んでいないか十分気をつけ、車内の安全を確かめたらすぐ車内に入り、ドアをロックしましょう。

エ 飲酒運転

米国においても、飲酒運転に対しては厳しい罰則が適用されます。逮捕後に留置され、釈放後も指定された日時に裁判所に出頭し、審判を受けることになります。運転免許の取消し・停止処分・罰金や社会奉仕活動が言い渡されることもあります。人身事故を起こせば、罰金刑以上の刑となる可能性もあります。飲酒運転で逮捕又は有罪が確定した場合、ビザの取消しにつながることもあります。飲酒運転は絶対にしないでください。

(4) その他犯罪への防犯対策

ア スリ、置き引き等の被害を少なくするため、(1)多額の現金を持ち歩かない、(2)人前で現金を見せない、(3)バッグはファスナーや留め金を必ず閉めて自分の方に向けて持つなど、常に注意しましょう。また、ホテルのカウンターで手続き中にスリ被害に遭うことがあります。手続き中も貴重品は手に持ち、足元の荷物は両足でしっかりはさむようにしましょう。

イ 路上強盗に遭わないためにも、夜間の一人歩きを避け、危険な地域に近付かないことです。また、夜間人影のない駐車場も被害に遭う確率の高い場所です。

ウ 誘拐・襲撃等の犯罪者はあらかじめ、セールスマン、電気・ガス・電話保安員等を装い、標的とする者について事前調査を行うことが多いので、見知らぬ訪問者やいたずら電話などが頻繁にある場合には、警察に通報しましょう。また、通勤や買い物の際は、その経路や時間を変え、行動を把握されないよう注意しましょう。

エ 自宅や事務所には、アイカメラや二重扉など、設備面での安全対策を十分にとりましょう。また、自分や家族の行動・所在をむやみに他人に知らせないようにしましょう。差出人不明の郵便物、小包等は慎重に扱い、少しでも不審な点があれば警察に届け出ましょう。

オ 不必要な夜間の外出はできるだけ避け、外出する場合は帰宅時間を家族又は信頼できる友人に伝えておきましょう。夜間の移動は短距離でも必ず車を使用しましょう。

3 万一事件・事故に遭遇した場合

(1) 警察・消防・救急はすべて「911」

緊急時には「911」に電話し(公衆電話ではコイン不要)、オペレーターに緊急事態の場所と内容(警察・消防・救急の別)を伝えます。緊急時以外は、「911」ではなく管轄の警察署に直接連絡しましょう。

(2) 犯罪被害に遭遇した場合

ア 銃や刃物を突き付けられた場合は、抵抗の姿勢を示さないようにしましょう。反撃のそぶりを見れば、攻撃される可能性が高くなります。また、路上で強盗にあったとき、いきなり内ポケットに手を入れて財布を出そうとすると、相手にピストルを取り出す動作と誤解され、刺されたり撃たれたりすることがあります。むしろ、金のありかをゆっくり指したり、目で教えたりすることで、相手に取らせる方が無難

です。ただし、犯人の顔をじろじろ見ることは、相手を必要以上に刺激させることになるので避けましょう。

イ ひったくり等の被害にあっても、むやみに犯人を追跡して取り戻そうとしないでください。襲撃されたり、付近に仲間がいたりする可能性もあります。

ウ 被害に遭った場合は、必ず警察に届け出ましょう。強盗・盗難等に遭った場合は、盗難品がリストアップされている警察証明書を手に入れておきます(盗難品が見つかったときや、保険の請求に必要になります)。また、クレジットカードやキャッシュカードを盗まれた場合は、クレジット会社や銀行に連絡してすぐに支払い停止の措置を行いましょう。

(3)交通事故に遭遇した場合

ア 停車及び負傷者の救護措置

交通事故に遭ったときは安全かつ速やかにその場所に停車し、負傷者がいる場合は必要に応じて救急車(911番)を呼ぶ等、負傷者の救護処置を優先してください。

イ 二次災害の防止

事故後は、事故車両のハザードランプを点灯させた上、事故車両から十分な間隔をとって反射板や発煙筒を置いて周囲の車両に危険を知らせてください。また、万一他の車両が突っ込んできた際に身の安全が確保されるような場所(路側帯、ガードブロックの後ろなどの安全な箇所)に退避するなど、二次被害の防止に十分心掛けてください。

ウ 警察への通報

万一交通事故を起こしてしまった場合は、速やかに警察(911)へ通報するとともに、ご加入の保険会社にも連絡してください。担当警察官の所属、階級、氏名、バッジナンバー、事件番号なども控えるようにしてください。

エ 事故処理時の対応

事故の相手方と運転免許証、車両登録証、保険会社の連絡先等の情報を交換してください。目撃者がいる場合にはその方の連絡先も入手し、可能であれば警察に事故状況を説明してもらおうとよいでしょう。また、相手方の警察官への説明をよく聞いて、反論があればその場で行うようにしてください(警察官がレポートを作成してからの申立ては、受け入れられない場合があります。)。英語に不安がある場合には、その旨を説明の上、通訳が必要なことを伝えてください。後日、相手方が事実と異なる説明をした場合に備え、事故現場や事故車両(ナンバー、破損箇所等)の写真を撮影しておくのも重要です。

(4)警察に呼び止められる等の状況が発生した場合

ア 運転中等に呼び止められた場合

(ア)パトカーが後方から赤や青のライトを点滅して近づいてきたときは、止まれとの合図ですので、路肩に車両を寄せて停車し、車内で警察官が来るのを待ちます(警察官は、まず、車のナンバー等について警察署に報告等を行ってから出てくるため、数分から10分程度待つことがあります。)。自ら車外に出て近づけば、抵抗するものと誤解され銃を向けられることもあります。

(イ)警察官を待つ間、武器を所持していると誤解されないよう、両手はハンドルに置いたままにし、勝手にダッシュボードやカバンを開けたりしないようにしてください。

(ウ)警察官の指示に従い、質問に対して協力的に対応してください。

イ 逮捕・連行されてしまった場合

(ア)警察官はあなたが関与したと思われる事件に関する質問をする前に、あなたの権利(Miranda Rights)を告げます。警察官の英語による説明がよく理解できない場合は、日本語の通訳を要請できます。

(イ)調査のため所持品を没収された場合は、必ず控えを受け取ってください。

(ウ)親類や弁護士等への電話は一度だけ許可されますので、親類などに自分の置かれている状況を連絡してください。

(5)困った方は、総領事館領事班へ

思わぬ事態に遭遇し、お困りの方は、総領事館へご連絡ください。週末・休日を含め、緊急時のための24時間対応可能な電話システムを導入しています。

在ヒューストン日本国総領事館 領事班

電話:713-652-2977(代表)

【パスポートを盗まれた又は紛失した場合】

- ・ 警察に届け出て、警察署による証明書(Police Report Fact Sheet)を入手します。もし警察署による証明書を発行してもらえない場合は、ケースナンバーだけでも入手してください。
- ・ 総領事館でパスポートの新規発給を申請します(紛失一般旅券等届出書を提出の上、一般旅券の新規発給申請を受けてください。パスポートの再取得には休館日を除き原則として6営業日を要します。必要書類は以下のとおりです。
- ・ 一般旅券発給申請書 1通(当館備え付け)
- ・ 紛失一般旅券等届出書 1通(当館備え付け)
- ・ 戸籍謄(抄)本 1通(6か月以内に発行されたもの)
- ・ 写真 2枚(サイズ縦4.5cm、横3.5cm)
- ・ 警察署による証明書 1通
- ・ 米国滞在資格が確認できる書類(米国査証、I-94、I-20、DS-2019、グリーンカードなど)

- ・ 他国政府の発行した有効なパスポート又は出生証明書(重国籍者のみ)
- ・ パスポートのコピー、有効な日本の免許証等身元確認資料(ある場合)

早期に日本へ直接帰国する方には、パスポートに代わる「帰国のための渡航書」を発給しています。「帰国のための渡航書」は、必要書類がそろっていれば、原則申請の翌日には交付されます(帰国後再度海外に渡航する場合は、日本国内において新規パスポートの発給が必要です。)。なお、「帰国のための渡航書」を発給した時点で、古いパスポートは無効となります。発行後、パスポートが見つかったとしても使用できませんので、ご注意ください。

旅券の紛失に備え、6か月以内に発行された戸籍謄(抄)本(又は本籍の入った住民票)を常に手元に準備しておくことや、緊急時にこれらの書類を速やかに日本から取り寄せる方法を確認しておくことをお勧めします。

III メキシコ国境周辺都市の安全対策

1 国境付近の特殊事情

(1) テキサス州とメキシコとの国境は総延長 1500km に及び、エルパソ、ラレド、マッカーレン等に日系企業が進出しています。特にこの地域のメキシコ側の都市(フアレス、ヌエボ、ラレド、レイノサ)は、賃金、失業率、インフラなど米国全土と比べ大幅な格差が存在しますが、これらの都市では、米国が目と鼻の先にあるため、米国への密入国や麻薬等の密輸の舞台となっています。国境付近では密入国者対策で警備が強化されており、米国国内であっても身分証の確認が頻繁に行われていますので、国境付近を移動する方はパスポートを忘れずに携行してください。

(2) 米国への密入国者のほとんどが着の身着のままやってくるため、密入国の前後の生活費のために犯罪を犯すケースもあります。また、以前から麻薬組織間の抗争及び治安当局の取締りに対する報復等の事件が頻繁に発生しています。

(3) メキシコとの国境地域のほか中南米諸国においても、誘拐事件が多発しています。誘拐事件は、富裕層を狙った身代金目的誘拐のほか、路上等で一般市民や観光客を短時間拘束し、ATM 等で現金を引き出させる短時間誘拐や実際には誘拐していないものの、誘拐したと偽り、短時間で現実的に支払い可能な金額を振り込ませる「偽装誘拐」も発生しています。

2 犯罪防止のための留意事項

(1) 治安の良い国から悪い国へ通勤している駐在員の場合には、居住地を地元と意識しがちですが、地元意識を勤務地にも持ち、地元新聞、テレビ等で現地の犯罪事情に関する情報収集に努めましょう。「自分も犯罪被害者となりかねない」との意識を持つことが、被害防止のために極めて重要であり、安全対策の出発点となります。企業や駐在員間で、日頃から連絡を密にし、情報を共有することも大

いに役立つでしょう。

(2)また、勤務地の事情に関心を持つ人でも、長年安全な居住地から通勤していると治安情勢や社会事情に大きな格差があることへの認識が薄れがちです。豊かな居住地ではありふれた車でも、貧しい勤務地では高級車となります。こうした落差を常に認識して行動してください。

(3)メキシコへ入国する際、国境付近で賊の待ち伏せによる被害があった旨の報告がされております。メキシコ側で業務を行う場合には、事前に治安情報をよく集めておき、現場では注意を怠らないようお願いいたします。

(4)誘拐の危険を避けるためには、「目立たない、行動を予知されない、用心を怠らない。」の防犯原則を守ることが大切です。また、身に覚えのない疑わしい電話が掛かってきたら、自らの情報を相手に与えず、一方的に切ってください。SNS 上で個人情報や行動予定をむやみに提供しないことも重要です。

(5)メキシコの治安状況については、外務省の海外安全ホームページや在ヒューストン日本国総領事館ウェブサイトのほか、在メキシコ日本国大使館のウェブサイトからも情報収集をしてください。

IV 大規模災害・テロ対策

1 ハリケーン

この地域で大規模災害として予想されるものに、ハリケーンがあります。2017年8月にハリケーン・ハービーがテキサス州南部沿岸部に上陸し、ヒューストンを含む南部沿岸部に甚大な被害をもたらしました。日頃から十分な準備を心掛けてください。

(1)ハリケーンについての基礎知識

ア ハリケーンの約98%は6月から11月にかけて発生するため、この時期がハリケーンシーズンとされています。一般に8月と9月の到来可能性が最大ですが、残る2%が5月や12月に発生している点にも留意が必要です。毎年5月下旬から6月にかけてNOAA(National Oceanic and Atmospheric Administration:米国国家海洋大気局)がその年のハリケーン予報を発表しますが、ハリケーン襲来の可能性の多寡にかかわらず、あらかじめ備えを尽くしておくことが必要です。一般に、海水温が低下するラニーニョ現象の年はハリケーン発生の危険が高いと言われます。

イ ハリケーンは、Tropical Wave Tropical Depression Tropical Storm Hurricane の順に発達していきます。トロピカルストーム(熱帯低気圧)とは風速39~73マイル/時の暴風雨を言い、このレベルから暴風雨に名前が付けられます。風速74マイル/時(風速33m)以上の暴風雨をハリケーンといいます。ハリケーンの規模と警報に関する用語は以下のとおりです。

(ア) Hurricane・・・風速が 74 マイル以上の暴風雨(5 つのカテゴリーに分別。カテゴリー3 以上を大規模ハリケーン(メジャーハリケーン)としています)。

カテゴリー	風 速
1	74 ~ 95mph(118 ~ 152km/h)
2	96 ~ 110mph(153 ~ 176km/h)
3	111 ~ 129mph(177 ~ 208km/h)
4	130 ~ 156mph(209 ~ 251km/h)
5	157mph ~ (252km/h)

(イ) 警報

(a)	Tropical Storm Watch	48 時間以内に Tropical Storm が沿岸部に上陸すると考えられる状況
(b)	Tropical Storm Warning	36 時間以内に Tropical Storm が沿岸部に上陸すると考えられる状況
(c)	Hurricane Watch	48 時間以内にハリケーンが沿岸部に上陸すると考えられる状況
(d)	Hurricane Warning	36 時間以内にハリケーンが沿岸部に上陸すると考えられる状況。この警報が発せられると、指示に従い避難を準備、又は避難を開始。

(ウ) 避難指示が出たら落ち着いて速やかに安全な場所へ避難してください。市又は郡(カウンティ)当局の出す(1)避難勧告(Voluntary Evacuation Order)には強制力はありませんが、(2)避難命令(Mandatory Evacuation Order)には強制力があります。避難命令が出された場合、市の警察、消防当局者も全て対象地域から退避したり、屋内にたてこもるため、それら当局者による救助、救援が期待できなくなることに注意が必要です。

(エ) 日頃の対策としては、ヒューストン市緊急対策室のウェブサイトが有用です。また、ヒューストン市ではフェイスブックやツイッターを利用したリアルタイムでの情報発信を行っているほか、登録をするとメールで自然災害その他の警報等を配信する「Alert Houston」のサービスがあるので、事前に確認しておくことをお勧めします。

(2) 日頃の準備

ア 大規模自然災害などの緊急事態発生時には、提出された在留届に記載された連絡先を基に在外公館から安否確認を行います。このため、住所、メールアドレス、電話番号等が変わった場合には、必ず変更届を提出してください。海外に3か月以上滞在される方の在留届の提出は、旅券法に定め

ある法律事項ですので、必ず提出をお願いします。また、在留届提出の際、メールアドレスを記載いただくことで、総領事館から安全情報などの各種情報が入手できます。

イ 家庭や職場などで、自然災害が発生した場合の集合場所(万一に備え複数の候補も決めておく。)及び避難場所までのルートを事前に決めておき、自然災害を想定した訓練の実施を行ってください。

ウ 自宅付近の病院、警察、総領事館などの所在地と連絡先をあらかじめ確認してください。緊急連絡先一覧を作っておくこともお勧めします。

エ 緊急災害キットを準備してください。下記に、ハリケーンなどの緊急災害時の対策の一環として準備しておくといふ防災グッズの一例をご紹介します(は必需品、 は可能であれば準備をお勧めするもの、 はあると便利というものです。)ハリケーンの上陸の危険性が高まると、住民らは一斉にこれらを確認すべくスーパーなどに殺到し、商品が品薄状態になりますので、早めの備えをお勧めします(特に、食料、水、保存食品、ガソリン、携帯電話の充電器(携帯式))。

項目	留意点	項目	留意点等
飲水	通常一人当たり1日1ガロン14日分を準備。	現金	カード・ATM が使えない場合あり。できるだけ小額の現金を準備。
衛生用水	トイレ、シャワー用。バスタブ等を利用して貯水。		
食料	保存可能な食料を人数分×14日分以上準備。 【例】パン、各種缶詰(肉、野菜、フルーツ等)、スープ類、ドライフルーツ、ナッツ類、ゼリー、飲物、高カロリー食品、冷蔵を要さない野菜、調味料、火が不要な保存食。	衛生用品	【例】トイレットペーパー、ウエットティッシュ、石鹸、消毒用アルコール、洗剤、生理用品、洗面用品(歯ブラシ、シャンプー、洗顔用品等)、マスク、ふた付きバケツ、ごみ袋、ビニール袋など。
懐中電灯	一人1つ準備が望ましい。予備電池を準備。	緊急時の持出キット	食料、飲物、衛生用品に加えて現金、パスポート等貴重品類等を入れたバック(防水性が望ましい)、救助、急遽退去命令が出された際に携行。
携帯ラジオ等	携帯テレビも有用。予備電池を準備。	コンパス	避難時に使用。
救急医療品	【例】各種サイズの絆創膏、安全ピン、ゴム手袋、ガーゼ、三角	ドライアイス	保存が効き、冷蔵に使用可能。

	巾、包帯、はさみ、ピンセット、針、ウエットティッシュ、消毒剤、体温計。	チューブテント	家が倒壊した場合、避難先などで利用可能。
ガソリン	車のガソリンは常時3分の2以上入れておく。	処方箋	必要であれば、避難前に薬局等で処方箋を書いてもらう。
携帯電話等	携帯電話、ポータブル式充電器(乾電池式)、ソーラー式充電器	消火器	小型のものが望ましい。
重要文書一式	重要文書はすぐに持ち出せるように準備(防水性のある袋に保管)。 【例】旅券、保険証書、出生・結婚証明書等。	その他 (各ご家庭の事情に応じて)	赤ちゃん用の乳幼児用食品(ミルク等)、おむつ、赤ちゃん用の薬。
食器類等	箸、紙皿、紙コップ、プラスチック容器など。		
調理器具	携帯ガスコンロと燃料、缶切り、ナイフなど。		ペット用の水、食料、ケージなど。
寝具等	寝袋、エアマット、毛布、タオルなど。		
常備薬	使い慣れた薬(頭痛薬、風邪薬など)。		
マッチ・ロウソク	防水用の缶等で保管すること。	【緊急連絡先】 在ヒューストン日本国総領事館 電話:713-652-2977 FAX:713-651-7822	
手袋	軍手、ビニール手袋など。		
工具	【例】ペンチ、テープ、アルミホイール、ソーイングセット、スパナ、ペン、紙など。	近くの病院や警察署	
衣類	着替え以外にも、予備の靴、長靴、雨具等も準備しておくとうよい。		

(3)ハリケーンが近づいてきたら

ア 沈着冷静な行動を心掛けてください。

イ ラジオ、テレビ、インターネット等から、情報入手に努めてください。

ウ バスタブや使用していない入れ物を洗浄し、洗濯等の用途のために水道水をためておくようにしてください。また、外に置いてある植木鉢やゴミ箱など暴風によって飛ばされる可能性のある物は、固定

するか屋内に入れてください。

エ 避難の指示が出された場合には、直ちに指示に従ってください。

オ 身体の安全を第一に考えた行動を心掛けてください。群衆心理に影響されないように注意してください。

(4)ハリケーン通過後及び洪水発生時の注意点

ア 家の近くや行き先付近で電線が切断されていないかどうかを確認してください。感電死等の危険も考えられるので、水たまり、鉄製のフェンス等に注意を払ってください。

イ 水があふれた時は、道路と水路との境目が分からない上に、普段慣れた道でも非常に崩れやすくなるので、運転及び通行には十分気をつけてください。車が水に閉じこめられた場合は、直ちに車を捨て、高所に避難してください。

ウ 水たまりは非常に深くなっている可能性があるため、極力避けて通るよう気を付けてください。

エ 水質低下が起こる可能性がありますので、飲料水はミネラルウォーターをお勧めします。傷口からばい菌が入る可能性がありますので、水たまり、泥が混じった水等は避けるようお願いします。

オ 物取りや政府関係者を装った詐欺など、一般治安が悪化する可能性がありますので、戸締まりを確実にし、不要な外出は避けるなど、気を付けてください。

(5)ハリケーン予報

ハリケーン予報は、毎年ハリケーンシーズン前に NOAA (National Oceanic and Atmospheric Administration: 米国商務省国家海洋大気局) やコロラド州立大学が発表しています。そのほか、以下のサイトが有用です。

ア 米国沿岸データ開発センター (National Coastal Data Development Center)

緊急時の連絡先等に関するインフォメーションシート「2012 NOAA Extreme Weather Information Sheets」(テキサス州版)が入手可能。

<http://www.ncddc.noaa.gov/activities/weather-ready-nation/newis/>

イ ヒューストン市緊急事態管理室 (Mayor's Office of Emergency Management)

Disaster Preparedness Guides が入手できるほか、備蓄リスト、避難時のチェックリスト等ハリケーン対策に役立つ各種資料を参照できます。フェイスブックとツイッターでも発信しているほか、「Alert Houston」へ登録を行うと、ハリケーン、熱帯性低気圧、竜巻等を含めた警報がメールで自動的に配信されます。

<http://www.houstonoem.net/>

Alert Houston: <http://www.houstonoem.net/go/maillinglist/4027>

ウ コロラド州立大学気象学部(Colorado State University, Department of Atmospheric Science) 年に数回、気象研究に基づくハリケーン予想の報告書を発表しています。)

<https://tropical.colostate.edu/>

エ ヒューストン市以外にお住まいの方は、お住まいの市又は郡(カウンティ)の関連部署のウェブサイトをご参照いただき、どのような情報提供を行っているか確認されることをお勧めします。

【ご参考:ハリケーン・ハービー】

2017年にヒューストンに多大な被害をもたらしたハリケーン・ハービーの概要は、以下のとおりです。

1 2017年8月17日、カリブ海上にトロピカルストーム(熱帯性低気圧)が発生。同月24日にハリケーンに発達、以降さらに勢力を増して北上し、5段階のうち2番目に強い「カテゴリー4」の勢力でテキサス南東沿岸部(コーパスクリスティ、ロックポート)に上陸をしました。上陸後、「カテゴリー1」に勢力を弱めたものの、テキサス上部にあった2つ高気圧の関係で、通過することなく停滞し、その後毎時1マイルでゆっくりとヒューストンのある北東に進路をとり、記録的大雨(4日間で例年1年分の降雨量)の影響で大規模な浸水が発生、ヒューストン市及び沿岸部を中心に甚大な被害をもたらしました。アボット・テキサス州知事は大災害宣言を発出し、住民に繰り返し警戒と落ち着いた対応を呼び掛けました。また、トランプ大統領も連邦非常事態宣言を発出し、テキサスへ多額への支援金を発表しました。米国連邦緊急事態管理局(FEMA)によるおおよそ10億ドルにもなる支援が行われました。アメリカ国立気象局は、一部地域での総雨量がアメリカ本土では過去最多となる51.88インチ(1318ミリ)に達したと発表しました。

2 上陸前には、非常に大きい勢力を保ったまま上陸することが見込まれたため、備蓄品(保存食料、水、ガソリン、携帯充電器等)を買い求める動きが見られ、スーパー等が品薄になり、また、ガソリンを購入する人で長蛇の列ができました。また、ハリケーンの影響を避けようと車で遠隔地に逃げようとする車により大渋滞が発生しました。また、ハリケーンの被害が甚大になると見込まれた場所には、市や郡から自主避難勧告、強制避難命令が発出されました。ガソリンは値上がりし、その後1か月程度価格が高止まりの状況が続きました。

3 ハリケーン上陸後には、記録的豪雨により、道路の冠水、河川の氾濫が発生し、川の近くの一部の道路は車がすっぽり入るほど浸水しました。また、道路が冠水することにより、自宅に取り残された住民が多数に上り、ヒューストン市警察のみならず、テキサス州内の警察を総動員してボート等による人命救助が行われました。多くの住宅が1階部分まで浸水しました。

4 また、ヒューストン市内の貯水地の水位の急激の上昇のため、ヒューストン市は Barker

Reservoir 及び Addicks Reservoir の計画放水を開始しました。Reservoir 近郊の住民に強制避難命令が発出され、甚大な洪水被害が更に広がりました。約 2、3 週間にわたり冠水により、市内各地で通行止めが発生しました。

5 当時の報道では、死者は少なくとも 82 名、テキサス州で約 12 万 2、000 人が救助され、約 5 万人がシェルターなどに避難、少なくとも 8 万世帯以上が停電と報じられました。ヒューストンのある Harris 郡では推計 1 万 6、000 棟が浸水被害にあったと報じられました。

6 また、ハリケーン通過後は、空き巣被害や政府関係者を装った詐欺といった治安の悪化も見られ、アボット知事は夜間外出禁止令を発出しました。また、洪水により一部の水道システムが影響を受け、一部においては、水道の利用時には沸騰を勧められました。

2 トルネード

(1)トルネードについての基礎知識

ア トルネードの種類

米国では、竜巻は、陸上竜巻(トルネード:tornado)、空中竜巻(ファネル・アロフト:funnel aloft)、水上竜巻(ウォーター・スパウト:waterspout)の3つに分類されています。

イ 主な発生の条件と現象

(ア)空気の下層と上層の間の温度差が大きいことに加え、空気の擾乱が激しい場合に竜巻が発生しやすいです。たとえば、ハリケーンの到来時や山の斜面や、沿岸部や地表の近接地点で温度差が生じる場合があげられます(暖かな砂地の近くに冷気を帯びた牧草地がある場合など)。

(イ)トルネードの現象としては、()押しかがってくるような黒い雲の大きな塊が生じる、()初期の段階では雨は降らず日照が見られることもある、()突然に風が強くなり、遠方に雷が生じることもある、()周囲の木の葉やごみが突然激しく旋回し始めるなどです。渦巻きの直径は 100～150メートルと様々であり、渦巻きの風速は 100メートル/秒を超え、移動距離は数百メートルから数百キロメートルに及ぶことがあります。

(ウ)米国のトルネードは、南西から北東に向け移動することが多く、不連続線(前線など、気温、風向き、風速などの気象要素の一部が急激に変化している面(不連続面)と地表面との交線。)に沿って進む傾向や、積乱雲の境目に沿って進む傾向があります。

ウ トルネードの起きる季節及び時間帯

米国南部は 3～5 月に発生しやすく、発生時間帯の一般的な傾向としては、午後 3～9 時の間に起きやすいとされています。

● 警報

(a)	Tornado Watch	トルネードが地域に発生する可能性がある。
-----	---------------	----------------------

(b)	Tornado Warning	トルネードが気象レーダーで確認された。
(c)	Severe Thunder Watch	雷雨発生の可能性がある。
(d)	Severe Thunder Warning	雷雨が発生中。

(3)避難の仕方

ア 建物の中にいる場合

避難用の地下室に入り込めばほぼ安全です。避難用の地下室がない場合は、家の中心部など建物の中で構造的に強いところ(柱の本数が多いトイレや建物の角)を選んで身を置き、トルネードの通過を待ってください。構造上、丈夫な家具があれば、その側に身を置くこともできます。窓の側は危険です。窓は必ず閉めてください。

イ 自動車を運転中の場合

自動車の中にとどまることは危険です。自動車から出て地面のくぼみ(地表面より低い場所)を探し、身を伏せ、竜巻の通過を待つようにしてください。陸橋の下は風が集中し強まることがあるので避けてください。

ウ 屋外にいる場合

直ちに頑丈な建物内に避難してください。退避時間がない場合には、道路より低いくぼみを探し、身を伏せ、竜巻の通過を待つようにしてください。川や池など水面の近辺や山や丘など高低差のある地形には近づかないようにしてください。

(4)トルネード予報

ア トルネードはハリケーンと異なり、局地的に発生し、通常、数分から数十分で終了しますが、ハリケーンのように数日前から対策を取ることは困難です。トルネードが発生する場合、発生見込み地域やその規模はある程度予測可能とされていますが、具体的な発生場所や進路は直前でないと分からないため、日頃からの備えが必要です。

イ 電器店で購入可能な「ウェザー・ラジオ」(30ドルから50ドル程度)を備え、常時、スイッチを入れておくと、竜巻の警報発生時にラジオから警報が鳴ります。家庭やオフィスに常備しておくことをお勧めします。

3 テロ対策

(1)情勢と脅威度

ア 2001年9月11日に発生した同時多発テロ事件を機に、米国はテロへの警戒を強化しました。必要な緊張感を持ち、用心して生活することが重要です。ただし、根拠のないうわさに惑わされないようにしましょう。

イ 米国においては、安全に対する脅威度が5つの色で表示されます。脅威度の低い方から高い方へ、緑色(低)、青色(注意)、黄色(増大)、橙色(高)、赤色(危険)というように表示され、2021年2月現在、米国全体に関しては黄色レベルとなっています。最新の脅威度については、米国政府のテロ・アラートのサイト(<http://www.terror-alert.com>)でご確認ください。

ウ テロについては、かつての多人数での組織的なテロから、ナイフや車、簡易爆弾などを利用した単独犯によるテロが増加する傾向にあります。また、犯行目的も、特定のイデオロギーや信念に基づくというよりは、身の不遇を社会のせいにして復讐を誓う自称ジハーディストが増えているとされています。

このようなテロの予防は、これまで以上に難しいものですが、テロに遭遇しないようにする又は遭遇した場合も被害を最小限にとどめるため、テロの標的となりやすい不特定多数の人が出入りする場所を訪れる場合は、周囲の状況に注意を払い、不審な人物がいたら速やかにその場を離れるなど、安全意識を持つことが重要です。

(2)テロに遭遇しないための留意点

ア テロの標的になるおそれのある施設付近にはできる限り近づかないようにし、大勢の人が集まる場所では周囲の状況に注意を払うようにしてください。空港はしばしばターゲットになっています。

イ 来訪者を装った不審者に事務所や車に爆弾を設置されないよう、社員用と来訪者用の入口や駐車場を区別することも有用です。また、爆弾が仕掛けられた車に事務所を爆破されないよう、来訪者の駐車場は事務所から離れた場所に設置することが望ましいです。

ウ 不審人物の出入りを規制するため、監視員を配置したり、カメラを設置してください。

エ 社内外の死角をなくし、整理整頓することによって、爆弾の早期発見を心掛けることも重要です。社員全員が不審物(放置荷物、手紙、小包等)に対し、普段から注意するよう努めましょう。

(3)テロが発生した場合

ア 普段事務所に不審物を見つけた場合には、触らず、速やかに遠ざかり、警察等に通報してください

イ 万一の避難経路確保のため、ドアや窓は開けたままにして逃げてください。私物を残してしまった場合でも、危険なので取りに戻らないでください。

ウ 身近で爆弾事件が発生した場合、まずはすぐその場に伏せてください。第一の爆弾をおとりとして、第二の爆発が起きる可能性があるため、速やかに爆発現場から離れてください。



(Terror-alert.com より、2013 年 1 月現在、黄色レベル(Elevated))

V その他生活習慣による注意事項

生活習慣上の各種行為について、一部では日米における受け取り方に大きな差があります。日本人の感覚では些細な行為であっても、米国では逮捕され、裁判になったり、思いがけなく、大きな処罰を受けた例がありますので、日米間の習慣・法制の違いを知っておく必要があります。

1 家庭内暴力(DV)

家庭内暴力(家庭における配偶者や子供に対する暴力)については、米国では日本とは比較にならないほど厳しい施策がとられています。これら家庭内暴力事案を見聞きした者、警察当局への通報が義務付けられており、通報を受けて駆けつけた警察は、例え夫婦喧嘩や親子喧嘩であったとしても、当事者双方の意思とは関係なく、当事者の一方を逮捕・拘留する場合があります。不用意に隣近所に聞こえるような大声を上げたりすると思わぬ結果を招くことがありますので注意しましょう。

2 親と子の関係

(1)入浴

米国において入浴は、プライバシーが強く保たれるべき行為とされており、親子が一緒に入浴することは非常識な行為と判断されます。時には子どもに対する性的虐待とみなされますので注意しましょう。

(2)子どもだけによる留守番

米国では、15歳未満の子供を意図的に、不当に危険な場所や状況に置き去りにした場合、刑法上の罪の対象となります。子供だけで留守番をさせたり、駐車中の車に子供を残したりすることは、状況によって児童虐待としてみなされる場合があります。公的行事に夫妻で出席を求められた場合は、アルバイトの留守番兼ベビーシッターを雇う必要がありますので、ご留意ください。

(3)しつけと児童虐待

子供に対する体罰については、米国人でも見方が多様ですが、子供の身体に痕跡が残るもの、児童の年齢に不相応なもの、親が感情的になり自己コントロールを失っている場合などは児童虐待とみなされ、親は逮捕され裁判となります。時には子供が隔離保護を受け、家族と引き離される場合もあります。公衆の面前で子供に対し大声を出すなど、過度とみなされる叱り方をしないよう注意しましょう。

(4)親権の問題

近年、国際結婚が増えていますが、父母のいずれもが親権を持つ親であっても、一方の親権者の同意を得ずに子供の居所を移動させること(親が日本に帰国する際に子供を同伴する場合を含みます。)は、子供を誘拐する行為として米国の国内法では重大な犯罪(実施誘拐罪)とされています。国際結婚した場合、その間に生まれた子供を日本に連れて帰る際には、こうした事情にも注意しましょう。

何かあったらこちらまで!

米国の警察・救急・消防 電話: 911 (英語のみ)

在ヒューストン日本国総領事館 (Consulate-General of Japan in Houston)
909 Fannin Street, 2 Houston Center, Suite 3000, Houston Texas,
77010

電話: 713- 652- 2977 (代表)

FAX: 713- 651- 7822

<https://www.houston.us.emb-japan.go.jp>

外務省海外邦人安全課

〒100-8919 東京都千代田区霞が関 2-2-1

電話: 03- 5580- 3311 (代表)